

ふくい社会福祉

4

No.390



温故知新 ～一途に社協道～

安心して暮らせる福井に

福井県警察本部 交通部交通機動隊
巡查長 横田 碧 さん（福井市）

学生時代に教育実習で生徒に教える場面があり、自分ではわかりやすく説明したつもりでしたが、生徒から「わからない」と言われてしまいました。

その言葉が心に強く残り「人に何かを伝える」ということの難しさを痛感しました。

自分に向いている職業もわからないまま不安な時期を過ごしていましたが、「正義感が強いし警察官が向いているのでは」というアルバイト先の人の何気ない一言。そして、自分の自転車盗難被害にあい警察官と接する機会があったことなどが重なり、警察官の仕事に興味を持ちました。

交番勤務を経て、現在は交通機動隊で白バイ隊員として勤務し、交通指導取締りに従事しています。違反の種類は様々ですし、ドライバーの性格も一人ひとり違います。取締りに理解してもらえることもあれば、言葉足らずでなかなか理解してもらえないこともあります。どのように説明したらドライバーに理解してもらい、違反を繰り返さないようにしてもらえるかが最大の課題です。この点では今も学生時代に体験した「人に何かを伝える」という難しさを感じながら任務にあたっています。

また、交通機動隊は福井県内すべてを管轄していますので、一日中白バイで道路を走り、歩行者、自転車、ドライバーの安全を守っています。夏の炎天下や冬の極寒時も屋外で仕事を

をしていますので、何よりも体力と忍耐力が必要となってきます。しかし、悲惨な交通事故を未然に防ぐというやりがいのある仕事ですので、一日も早く先輩警察官のようになることが今の目標です。

私は福井の風土がとても好きです。「大好きな福井」「大切な福井」の安全を守り、安心して暮らせる福井の実現を目指します。



※福井県警察本部交通部交通機動隊には女性警察官が2名配置されています。

表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。



の具現化をめざして

平成 25 年度事業が始動

利擁護」に関わる複雑な問題の解決に向けて、さまざまな平成 25 年度の事業計画・予算が先の理事会、評議

(4 年次) に基づく事業活動の進行管理と評価
献できる重層的ネットワークづくりの強化
る新たな課題への挑戦

- (3) ふくい福祉就職フェアの実施
- (4) ふくしジョブミニパーク（地域型ミニ面談会）の実施
- (5) (新) 月例面談会の実施
- (6) 福祉人材無料職業紹介事業の実施
- (7) 義務教育教員免許志願者に対する介護等体験の実施
- (8) (新) 現地集合型施設見学会の実施など

3 福祉事業の経営に関する相談支援体制の強化

- (1) 社会福祉施設経営相談と経営課題に関する研修の実施

4 福祉サービスの評価・公表制度を活かした事業所支援

- (1) 介護サービス情報の公表
 - ◆ 指定情報公表センターの運営
 - ◆ 指定調査機関の運営
- (2) 福祉サービス第三者評価推進組織の運営
- (3) 福祉サービス第三者評価事業の実施
- (4) 地域密着型サービス外部評価事業の実施
- (5) 福利厚生センター（地方事務局）事業の推進
- (6) 民間社会福祉施設職員退職共済事業の運営など

5 県域の福祉ネットワーク組織や職能団体への支援

- (1) 福祉施設職員異種施設交流事業の実施
- (2) 社会福祉施設災害対策支援プログラムの推進
 - ◆ 防災担当職員等研修会の開催
 - ◆ 災害時における施設相互応援体制の基盤づくりなど
- (3) 保育部会活動
 - ◆ 第 54 回福井県保育研究大会（南越前町）の開催など
- (4) 福祉施設等種別協議会活動の支援
 - ◆ ブロック老人福祉施設研究大会（福井大会）の共催など

6 福祉サービスの苦情解決の機能と支援体制の強化

- (1) 福祉サービス苦情解決事業の推進
 - ◆ 苦情解決体制整備等に関する福祉事業所訪問相談の実施
 - ◆ 福祉サービス苦情解決セミナーの開催など

7 総合相談・自立生活支援体制の強化

- (1) 生活福祉資金制度の実施
- (2) 生活困窮者自立促進支援の基盤づくり
- (3) 日常生活自立支援事業の実施
 - ◆ 契約締結審査会の運営等
 - ◆ 福祉サービス利用援助事業の推進（17 市町社協へ委託）
- (4) (新) 市民後見人養成講座の開催

8 相談・支援機関とのネットワークの強化

- (1) 高齢者権利擁護推進事業の実施
 - ◆ 高齢者専門相談窓口の開設

- ◆ 高齢者権利擁護相談窓口の開設
 - ◆ 高齢者権利擁護対応専門職チームの派遣
- (2) 福祉用具・住宅改修関係専門相談員の登録、出張相談の実施

IV 元気で信頼される福井県社協づくり

1 顕彰、協賛事業を通じた広域の福祉活動基盤づくり

- (1) 「第 60 回福井県社会福祉大会」の開催
- (2) 第 2 回ふくいチャリティーアート展の開催
- (3) 福祉車両（積善会号）寄贈事業の実施など

2 福井県社協の発展強化を図る経営分析等の仕組みづくり

- (1) 職員の育成・業務支援体制の強化
- (2) 「第 3 次ふくい地域福祉プラン 21」の進行管理
- (3) 福井県社協の経営改善方策に関する研究

3 福井県社協におけるリスクマネジメント体制強化の推進

- (1) 働きやすい職場環境・職場風土をつくる仕組みづくり
 - ◆ 職員衛生委員会活動の推進など

4 福井県社会福祉センター指定管理業務の推進

- (1) 利用しやすい環境づくりと利用の促進
- (2) (新) 災害時避難所運営体制（備蓄品整備等）強化
- (3) (新) 耐震補強計画・実施計画策定への協力など

5 幅広い関係者・団体との交流・協働による組織価値向上

- (1) 相互に連携・協働する取組みとネットワークの強化
 - ◆ 福祉従事者派遣事業の試行実施
 - ◆ 災害時福祉・介護分野広域ネットワークづくり ※再掲

6 業務推進を担う福井県社協職員の能力開発

- (1) 職場研修制度に基づく職員のスキルアップ
- (2) 業務の進行管理・目標管理等に関する仕組みの強化

7 役職員間のコミュニケーションの推進

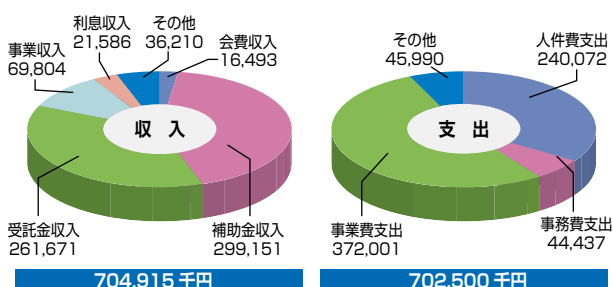
- (1) 社内マガジン「ぴーす」の発行
- (2) 「つないでキラリ☆プロジェクト」の推進など

8 財務状況や事業活動に関する迅速で適切な情報開示

- (1) 広報誌、ホームページ等を通じた関連情報の提供
 - ◆ (新) 福祉広報コンテスト（仮称）の実施
 - ◆ 福祉情報サロン機能（蔵書管理システム整備等）強化
 - ◆ 情報紙「ふくい社会福祉」の発行（年 10 回）など

平成 25 年度収支当初予算の概要

※ 経常的な事業活動の収支状況（貸付、基金等原資、繰入収支を除く）（単位：千円）



(注) 平成 25 年度当初予算による福井県社会福祉協議会の経常的な事業活動のための収支状況について、その概要（イメージ）をご理解いただくためにグラフとして表現したものです。このため、会計・経理区分間の繰入金をはじめ、基金・積立金等の資産運用関係（財務活動）、民間社会福祉施設職員退職共済（原資）および生活福祉資金関係等（原資）の特別会計にかかる事業部分についての予算は反映されておられません。

I 福井でのすこやかな暮らしを支える つながりの輪づくり

1 つながりの輪で支えあう県民意識の創造

- (1) 明るい長寿社会づくり推進事業
 - ◆ アクティブシニア養成講座の開催
 - ◆ 第26回全国健康福祉祭（高知県）への選手派遣
 - ◆ ふくい健康長寿祭2013（坂井市、あわら市）の開催
 - ◆ 情報誌「福悠人」の発行（年6回）
 - ◆ ラジオ放送講座の開講など
- (2) 介護実習・普及センター事業の実施
 - ◆ 家庭介護講座、介護出前講座、介護公開講座の実施など

2 地域でつながりの輪づくりに参加する人材の発掘と養成

- (1) 地域支え合い体制づくり人材育成事業の実施
 - ◆ 地域見守りフレンズ育み講座の実施
 - ◆ 地域コミュニティパートナー養成研修の実施

3 「つながれボランティアの輪推進運動」の啓発

- (1) 「つながれボランティアの輪」推進強化事業の実施
 - ◆ つながれボランティアの輪推進運動（ボランティア月間）の広報啓発
 - ◆ ボランティア体験、作文コンクールの実施
 - ◆ 「ふくいつながりフォーラム2013」の開催
- (2) 福井県まごころ基金助成事業の実施
 - ◆ 民間の先駆的・開拓的な事業に対する助成
 - ◆ 世代間（高齢者・大学生）ホームシェア懇談会の開催

4 地域ぐるみの「福祉教育」の推進

- (1) 地域ぐるみ福祉教育推進事業の実施
 - ◆ 市町社協による地域ぐるみの福祉教育活動への助成
- (2) 市町社協ボランティアセンターの実践研究
 - ◆ 地域支え合い体制づくりの人材育成
 - ◆ 地域ぐるみ福祉教育推進事業の成果検証

5 地縁・知縁のつながりを広げる協働・共同の場づくり

- (1) 施設・社協ボランティア担当職員資質向上研修
- (2) 福井県民生委員児童委員協議会との連携
- (3) 福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会への支援
- (4) 福井県災害ボランティアセンター連絡会との連携
- (5) ふくい県民活動・ボランティアセンターとの連携

II 福井の福祉活動をけん引する 社協のブランドづくり

1 住民の福祉活動を支える社協の「見える化」の推進

- (1) 「県市町社協会長会」の運営
- (2) 市町社協課題解決戦略会議の開催
- (3) 市町社協トップセミナーの開催
- (4) 社協ボランティアセンター実践研究会の開催

2 住民の福祉活動を応援するワーカーのスキルアップ

- (1) 社協ワーカーの実践力向上に対する研修の実施
- (2) 社協ボランティアセンター職員の実践力向上支援

3 住民の福祉活動を活かした地域のセーフティネットの構築

- (1) 地域で支えるセーフティネットづくり勉強会の開催

「つないでキラリ☆まち・ひと・えがお。」

福井県社会福祉協議会

地域で浮かび上がる「社会的孤立」や「生活困窮」、「権
まな人や組織との重層的なネットワークづくりを重点化
員会で承認されました。

重点課題

- ① 第3次ふくい地域福祉プラン21
- ② 生活困窮等の個別課題の解決に貢
- ③ 組織・事業活動の基盤強化に関す

(2) 災害時における社協相互支援体制の強化

- ◆ 相互支援のための実地訓練の実施
- ◆ 東海北陸ブロック県・名古屋市社協災害応援協定
- ◆ 市町社協職員の防災士講座受講支援
- ◆ 北陸3県社協合同研修会の開催（富山県・石川県と共催）
- ◆ 「東日本大震災」被災地支援活動の計画的な実施

(3) (新) 災害時福祉・介護分野広域ネットワークづくり

4 市町社協を元気にする経営課題の分析と支援策の強化

- (1) 市町社協強化に向けたステップアップミーティング
- (2) 社会福祉法人新会計基準の移行支援
- (3) (新) 東海北陸ブロック福祉活動指導員研究協議会の開催
- (4) (新) 地域福祉学会東海北陸地方部会実践研究会の開催

5 市町社協の「見える化」への支援

(1) 「社協による地域福祉推進研究会」活動の推進

- ◆ 社協職員を対象とした人材育成研修の体系づくり
- ◆ 小地域福祉活動計画策定の手引きづくり

III 福井の福祉を高い専門性で支える サービスの基盤づくり

1 福井の福祉・介護を支える専門職像の明示と育成策の強化

- (1) 福祉職員生涯研修の実施
 - ◆ 福祉職員生涯研修の実施
 - ◆ 福祉職員育成サポート（ほやほや出前研修）の実施など
- (2) 福祉職員専門課題別研修の実施
 - ◆ 読まれる広報紙づくり研修
 - ◆ (新) 人材定着のためのワークステージ向上研修
 - ◆ (新) 障がい者への理解を深めるための研修
 - ◆ (新) 好感もてる身だしなみ研修など
- (3) 福祉職員業種別・職種別研修の実施
 - ◆ 保育士中堅・リーダー職員研修の実施
 - ◆ 認知症介護実践者研修
 - ◆ 介護職員等訪問指導事業の実施など
- (4) 介護支援専門員養成、資格取得支援研修の実施
 - ◆ 介護支援専門員専門・更新研修の実施
 - ◆ 介護支援専門員試験準備講習会、模擬テストの実施など
- (5) 介護支援専門員実務研修受講試験の実施
- (6) 講師台帳の整備

2 福井の福祉・介護を支える人材の発掘と定着の強化

- (1) 福祉・介護人材マッチング機能の強化
 - ◆ (新) 小中学校児童・生徒等の介護事業所職場体験の実施
 - ◆ (新) 福祉・介護の仕事説明会（小中学校や地域）の実施など
- (2) 介護人材新規就業支援

会議室、研修会場をお探しのみなさまへ

福井県社会福祉センターのご利用案内

福井県社会福祉センターは、**福祉関係者はもとより一般の方にも**、会議室・研修室等の貸出しを行っています。ぜひご利用ください。

センター各部屋の貸出

センターには少人数の会議用の部屋から 100 人程度の研修ができる部屋のほか、体育館、和室等さまざまな部屋があります。

利用可能時間 9 時～ 21 時（事前申込みにより 22 時まで延長可）

申込可能時期 利用日の 2 ヶ月前から前日まで

利 用 料 部屋、利用時間により異なります。
詳細は下記あてお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

申 込 方 法 電話等にて予約後、所定の申込書を持参または郵送、E メール、FAX のいずれかでお申し込みください。

140 台収容の駐車場

センターでは昨年末に来場者のための駐車場を拡張しました（収容台数 140 台）。

これにより、大人数の研修等にも対応できるようになり、車での利用が便利になりました。

また、東側駐車場から館内へ出入りしやすい通路も整備しています。



エントランス



駐車場からの通路（東側出入口）



東側駐車場

施設概要

階別	おもな貸室
4	母子会議室、第 1・第 2 研修室、母子第 1・2・3 談話室、第 1・第 2 技能習得室、音楽研修室、視聴覚室
3	老人研修室、趣味の教室、老人集会室、娯楽室、老人談話室
2	身障第 1・第 2 研修室、点字室、手話室、ブレイルルーム、和洋裁訓練室、作法訓練室、調理訓練室、体育館
1	大会議室、身障第 1・第 2 集会室

福祉情報サロンをリニューアル

センター 1 階に、福祉関係の図書資料を閲覧できる「福祉情報サロン」を移設しました。図書だけでなく、福祉関係のビデオ、DVD なども貸出していますので、お気軽にご利用ください。（平日 9：00～17：00 / 貸出期間は原則 2 週間。料金は無料です。）

また、車いす・シニア体験セットも貸出しています。

お問い合わせ・お申し込み先

福井県社会福祉センター（総務企画課：センター管理室）

福井市光陽 2 丁目 3-22 **TEL** 0776-24-0294 **FAX** 0776-24-8941

E メール somu@f-shakyo.or.jp

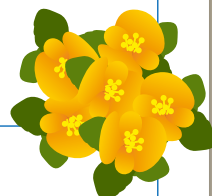
ホームページ <http://www.f-shakyo.or.jp/static/00000005/>

「外部研修に職員を出したいけど、
なかなか勤務の調整がつかない」
「新任のパート職員さんにも
研修を受けてもらいたい」
「正しい接遇マナーについて、
施設職員全員で学びたい」

そんな声にお応えして、今年度も

ほやほや出前研修 を実施します！

目 的	県内事業所の新任職員に対して、事業所に近い場所で研修を実施し人材育成を図ります。
対 象	小規模事業所や研修受講の人的余裕がない事業所の新任職員 5～10人程度。 種別不問、複数事業所の同時開催も可能です。
実施期間	平成25年4月～10月（開催日時はお相談のうえ、決定します。）
内 容	◆基本コース 8時間（講義・演習2時間×3回、面談会） ◆会場は、事業所内や公民館等ご指定の場所へ伺います。 ◆受講プログラム例（この中から3科目お選びください） ①福祉サービスの実践 ③コミュニケーション ⑤チームワークとリーダーシップ ②組織活動（ルールの理解） ④職場の基本動作（接遇） ⑥能力開発
費 用	1回 4万円。他にテキストとワークシート代をご負担いただきます。 テキストは、福祉職員研修テキスト 基礎編（全社協） 1冊840円 新任職員研修課程 ワークシート（エイデル研究所） 1冊690円



面談会も好評！会場、開催時間、内容はご相談のうえ、決定します。

お気軽にお問合せください。お待ちしております。 福祉の人づくり支援課まで TEL：0776-24-2339

福井県ボランティアセンターからのお知らせ

これまで、福井県ボランティアセンターが受託・運営を行っていた「福縁ボランティアネット」、「ボランティア・カフェ」は、平成25年4月から、福井県男女参画・県民活動課が直接運営し、以下のとおり名称の変更と機能の統合が図られます。

- 「福縁ボランティアネット」▶「**福井県社会貢献活動支援ネット**」
<https://www.navi-fukui.jp/>
- 「ボランティア・カフェ」▶「**ふくい県民活動・ボランティアセンター**」
〒910-0858 福井市手寄1丁目4番1号 AOSSA7階
TEL：0776-29-2522

福井県社協は、今後も、連携・協力して、ボランティア活動を推進していきますので、よろしくお願いいたします。



あなたの地域・職場で Let's 無料介護講座!!

～介護する人もされる人もこの機会に、介護についてちょっと考えてみませんか～

負担の少ないらくらく介護法を**介護のプロ**がお教えします。
ご希望の日・時間・場所にお伺いします。ぜひ、ご利用ください!!

主なテーマ

- ★腰痛にならないための体の起こし方
- ★移動・移乗の方法
- ★食事の工夫やお世話のしかた
- ★着替えのしかた
- ★排泄のお世話のしかた
- ★認知症の理解と介護のしかた

ご希望のテーマ・内容についてセンターにご相談ください。



お問合せ・お申込先

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
福井県介護実習・普及センター

TEL 0776-24-0086

FAX 0776-24-0063

〒910-8516

福井市光陽2丁目3-22

福井県社会福祉センター1F

E-mail kaigo@f-shakyo.or.jp



あなたも受講してみませんか! ラジオ放送講座「いきいきセミナー」

新規受講生募集中!

FBCラジオ（福井 864kHz、敦賀・小浜 1557kHz）毎週日曜日 6:30～7:00 放送

受講生になると毎月講座がよくわかるテキストが送られるほか、聴講後感想文を提出すると指導・助言が受けられます。

■受講資格／県内在住の方（年齢は問いません）

■受講料／4,800円【テキストのみ】、6,000円【感想文用往復ハガキ含む】

■講師／県内外の著名な方を予定

■受講申込／電話、FAX、郵便または電子メールでお問い合わせください。折り返し受講の手引きおよび申込書をお送りします。

放送日	講師		テーマ
4月7日	シンガーソングライター	ヒナ タカコ	ふるさとの風景に癒され歌がうまれ～ヒナタカコの世界～
4月14日	福井県農業試験場主任	山口 秀武	家庭菜園づくりで健康長寿
4月21日	曹洞宗高安寺住職	各務 素弘	現代僧侶の独り言
4月28日	共同通信社編集委員兼論説委員	渡部 道雄	激化する米の新品種開発競争

※パソコン・スマホでもラジオ放送講座が聴けます！（radiko）

◆問い合わせ先◆ 福井県社会福祉協議会 すこやか長寿課 TEL 0776-24-2433

他施設交流が、新たな発想や視点をもたらす!

～「キャリアアップのための福祉実践研修」のご案内～

本研修は、自らが属する施設とは異なる施設で、その対象や業務等を見聞し、実際に関わりを持つことで自らの業務や取り組み姿勢等を振り返り、幅広いものの見方・考え方等を深め、キャリアアップを図ることを目的に、平成23年度より実施しています。福祉施設を利用する県民への一層のサービス向上にむけ、本研修をぜひご活用ください。

研修アウトライン

- 【実施期間】 平成25年6月3日（月）～平成26年2月28日（金）（9か月間）
- 【実践研修対象者】 直接利用者への処遇を行う概ね勤続3年以上の相談員、指導員、介護職員、保育士等
- 【実践研修の内容等】
 - 実践研修の具体的な取り組み例
高齢者、障がい者、児童（乳幼児含む）等に対する介護、介助、話し相手、保育等
 - 実践研修の期間
連続する概ね5日以内（1日あたり概ね7～8時間程度（休憩時間含む））
- 【申込み受付期限】 平成25年5月31日（金）まで（必着）

※本研修の詳細については、福祉サービス支援課（TEL：0776-24-2347）までお問い合わせください。

「第1回ふくいチャリティーアート展」 ご来場ありがとうございました。

3月1日（金）～4日（月）までの4日間、福井カルチャーホールにて「第1回ふくいチャリティーアート展」を開催しました。洋画家の豊田三郎先生、福井県立美術館の芹川貞夫館長、福井県民間保育園連盟の竹内文憲会長、本会の伊藤靖朗副会長のテープカットで幕開けし、多くのお客にご来場いただきました。

今回の作品販売による収益は、テーマ「未来を支える子どもたちのために」に基づき、児童福祉分野の事業に活用させていただきます。

このアート展の開催にあたり作品をご協賛いただきました県内外の先生方に心よりお礼を申し上げます。



寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

3月13日

北陸銀行福井支店 様（福井市）
外貨紙幣・コイン 約6kg
本会を通じて（社団）日本キリスト教海外医療協会・（財）ジョイセフへ寄贈

3月19日

一般社団法人 福井県電業協会 様（福井市）
寄付金 432,700円
寄付先 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会



北陸銀行 様



福井県電業協会 様

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

平成 25 年度 福井県社会福祉協議会新事務局体制

専 務 理 事 五十嵐 嘉 也
事 務 局 長 永 松 真
事 務 局 次 長 藤 田 康 彦
事務局次長（総務） 前 波 かず子

総務企画課

課 長 事 務 取 扱 前 波 かず子
課 長 補 佐 杉 本 吉 弘
主 任 横 山 重 人
主 任 平 田 由 美
主 査 小 澤 永 嗣
主 査 大 嶋 民 恵
嘱 託 佐 藤 麻 美
臨 時 職 員 斉 藤 睦 子
主 査（県出向） 田 島 雄 二

福祉のまちづくり推進課

課 長 事 務 取 扱 藤 田 康 彦
総 括 主 任 岩 田 さおり
総 括 主 任 吉 田 孝 博
主 査 武 藤 功 士
主 査（県派遣） 井 関 知恵美
嘱 託 坂 口 法 子

嘱 託 内 田 武 夫
臨 時 職 員 蟹 瀬 千 春

福祉サービス支援課

課 長 鷺 田 悦 郎
課 長 補 佐 広 部 喜 寛
主 任 高 田 勝 之
主 任 山 本 純 江
主 査 小 澤 和 弘
主 査 小 澤 澄 子
指 導 員 清 川 清 治
指 導 員 笹 川 裕 一

福祉の人づくり支援課

課 長 北 島 忍
総 括 主 任 島 琴 美
主 任 鉾 碯 直 文
主 査 堂 前 喜 靖
主 査 佐 藤 美 栄
主 事 福 田 良 通
主 事 宮 川 鉄 平
嘱 託 酒 井 直 美
専 門 員 関 戸 憲 治

専 門 員 村 田 紀 一
臨 時 職 員 西 川 かず菜

すこやか長寿課

課 長 金 牧 裕 美
主 任 山 城 康 雄
主 査 紺 井 知 奈
主 事 青 柳 知 里
嘱 託 前 川 眞 子
講 師 西 尾 桂 子
（嶺南地域福祉相談・介護実習普及センター）
所 長 樋 口 治華次
主 任 加 藤 典 子
嘱 託 橋 本 純 子

福井県共同募金会

課 長（出向） 山 岸 幸 美

福井県民生委員児童委員協議会

事 務 職 員 山 本 正 栄

平成 25 年 4 月 1 日付

復興への希望を分かち合う…「被災地を忘れない」 「3.11 希望の灯り」県内で一斉点灯 ～ 3.11 希望の灯りでつなぐ絆プロジェクト～



県社協での点灯式

昨年（平成24年）2月、岩手県陸前高田市「気仙大工左官伝承館」に灯る「3.11 希望の灯り」から分灯し、県内の市町村社協と県社協で点灯した灯り。東日本大震災から2年が経った去る3月11日、今年も「3.11 希望の灯り」でつなぐ絆プロジェクトとして、震災で失われた尊い命への慰霊と被災地の復興に向けた希望や願いをできるだけ多くの県民と分かち合おうと、県内社協で一斉に灯りを点灯しました。

県社協で行われた点灯式には約60人が参加。

参加者全員による黙とうの後、県社協の品谷専務理事が「復興は未だ道半ば。被災地や被災者の苦しみを忘れてはいけない」と挨拶。

続いて、昨年現地のガス灯から直接灯りの分灯を受け、福井に持ち帰ってきた島総括主任が、「3.11 希望の灯り運営協議会」藤原会長から昨年の分灯時に授かったメッセージを朗読。改めて被災された方々や

地域の希望を分かち合うことの大切さを参加者で確認しました。

その後、職員を代表して、県社協の第1次派遣メン

県内各地でも点灯

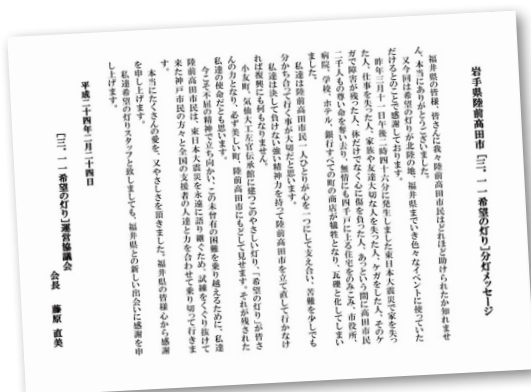
バーの一人として現地で支援活動に携わった高田主任が越前焼きの燭台に灯りを点灯しました。

灯りは、昨年同様、県内17の市町村社協でも同じ越前焼の燭台で一斉に点灯しています。



どんど焼きの御神火を種火に（勝山市）

中でも、勝山市では、2月24日に開催された同市「左義長まつり」のどんど焼きの御神火を種火に灯りを点灯したほか、池田町でも毎年開催される「いけだエコキャンダル」で使用するキャンダルを種火に、地域の保育園児やふれあいサロン利用者が灯りを点灯しました。



昨年（平成24年）「3.11 希望の灯り運営協議会」から寄せられたメッセージ

各地の灯りは、3月15日（一部地域では19日）まで点灯されました。震災から丸2年が経った今も、目に見えて実感できるほど復興は進んでいないとも言われています。灯りに込められた「希望」は、震災の風化を戒めるとともに、震災からの教訓を今なお私たちに語りかけてくれています。